

健康フェスタを初開催

宮古医師会

講演・ブースで情報発信

3年越しに
企画実現
医療関係者の連携強化

宮古地区医師会（竹井太会長）は19日、市保健センターで第1回宮古島健康フェスタを開催した。2020年に実施する予定だったが、コロナ禍の影響で3年越しに実現したもの。歯科医師会・薬剤師会・市との共催でさまざまな講演やブース展示を行い、健康づくりのための情報を発信。今後も医療関係者の連携を強化しながらイベントを継続・発展させ、市民全体で健康増進について考え、行動する機会にしていきたいという。

宮古保健所の木村太一所長が、宮古地域における新型コロナウイルスの流行状況と影響について講話。宮古地域で

の感染者数は2万人を超え、地域住民の40%が新型コロナウイルスに罹患。人口当たりの感染率は国の約2倍に達して

いる一方、死亡率に差はみられないという。木村所長はコロナ禍が始まって以降、市の特定健診

とがん検診の受診率が低下していることを紹介。特に肺がんと大腸がんの検査率が落ち込んだという。多良間村ではコロナ禍にあっても低下していないことを指摘し「検診受診率が低下した影響は遅れて現れてくる」と注意を促した。

竹井会長は「がんなどさまざまな死因はあるが、人間の死亡率は100%。必ず『その日』はやってくる。『その日』を迎えるまでに

と訴えた。宮古病院の池間正英整形外科部長は、高齢者の心身の活力低下（フレイル）対策を講話。健康寿命を伸ばすことで、「80歳になって

も歩いて外出している」または「車いすを自分で操作している」社会の実現を目指す「80GO（ハチマルゴ）宣言」を紹介した。聴衆として参加した同病院長の岸本信三院長は「市を含めてさまざまな医療関係者が手を取りあい、まさに『オール宮古』になっているのが宮古島の素晴らしいところ」と話した。市の仲宗根美佐子福祉部長は「3年越しに実現できて大変うれし。さらに大きな催しに発展させ、市民全体で健康について考える機会にしたい」と話した。講話の他にも、歯科医師会の歯の健康に関する展示や、クリニックによる生活習慣病予防指導などさまざまなブースが展開された。



第1回健康フェスタで講演する竹井医師会長＝19日、市保健センター

どのような人生を歩みたいのかという皆さんの思い、健康面からサポートするのが我々の仕事。死生観について一度考えてみてほしい」